

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



| | | | |
|---------------|--|------|----|
| 科目ナンバー | | | |
| 科目名 | 危機管理法制6（行政・国際） | | |
| 担当教員 | 新倉 圭一郎 | | |
| 対象学年 | 1年,2年 | 開講学期 | 後期 |
| 曜日・時限 | 火 5 | | |
| 講義室 | 1303 | 単位区分 | 選 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目大分類 | 講義 | | |
| 科目中分類 | 危機の大学院修士課程力カテゴリ | | |
| 科目小分類 | 講義・コア | | |
| 科目の位置付け（開発能力） | ■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（30%） DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（40%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（30%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（%） | | |
| 教員の実務経験 | 2010年から2011年、2016年から2017年の計2年間、外務省国際法課において国際法調査員として勤務し、2017年及び2021年には、外務省国際法課主催の研究会に委員として参加し、国際法の実践的な取組みに関与する経験をえました。 ここで得られた知見をもとに、現実の国際社会において国際法がどのように活用され、法の支配に基づく紛争解決を実現させるにあたってどのような点が問題となるのか、といった実践的な観点も取り入れた演習を行います(第2～15回) | | |
| 成績ターゲット区分 | | | |
| 科目概要・キーワード | 危機管理に関する研究を行う上で、危機管理に係る法律や制度、またそれらの運用についての正確な知識および実践を理解することは不可欠です。本講では、武力紛争、領土・海洋、国際テロリズム、難民、地球環境問題、感染症など、国境を越えて、または国と国との関わりにおいて発生するグローバルな危機に焦点を当て、国家間関係を規律する法たる国際法が、危機の未然防止や危機の解決においていかなる役割を果たしているかについて実際の事例に基づき学修します。さらに危機への対処に際しての、国際機関など国家以外のアクターの位置づけについて理解を深めることも射程とします。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とします。 授業は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンシに基づき効果的な授業方法として、または各授業を補充・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード： 国際法、国際社会における法の支配、国家間の紛争解決 | | |
| 授業の趣旨 | ■副題 国際法学と危機管理 ■授業の目的 本講義は、国際法が危機管理に関わる国際的な諸問題の予防および解決において如何なる役割を有し得るかについて、国際社会特有の構造を踏まえて理解することを目的とします。 ■授業のポイント 本講義では、国際組織（国連）、空間、人権、刑事、経済、文化、環境、エネルギー、安全保障という非常に多岐にわたる分野における国際法の制度を取り上げ、①それぞれの制度の背景や趣旨、②国際社会における適用、③日本国内における実施、という視点から理解します。さらに、国際法が、日本国内の法制度や、ひいては日本の社会にどのような影響を与えているかについて考察するとともに、我々の日常生活と大いに関連するものであることも併せて学修します。 | | |
| 総合到達目標 | ■危機管理学および国際法学に関する問題に対し、強い関心をもって客観的に洞察することができる。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、実状と法制度を把握・理解したうえで、考察対象として認識することができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、自己の経験や目標と関連付け、研究意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■危機管理学および国際法学に関する問題に対し、科学的な手法によって分析することができる。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、国際法学の理論や概念に基づいて理解することができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、国際法分野の関連資料の収集と分析を体系的に行うことができる（第1回～15回）。 ■危機管理学および国際法学に関する問題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・危機管理や国際法に関する資料や学術論文について、用語の意味や文脈を適切に把握しつつ、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関わる国際的な諸問題について、目的、構成、内容に配慮しつつ、分野固有の規律に従って、口頭または文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回） | | |
| 成績評価方法 | ■授業参加度（15回）50% （評価の観点）学術的な姿勢、予習・授業中の応答の確認を行い評価します。 （フィードバックの方法）授業中にフィードバックします。 (適用DP) DP1（30%）、DP2（40%）、DP3（30%） ■プレゼンテーション（2～3回）50% （評価の観点）学術研究としての水準、プレゼンテーションの技術、配布資料の完成度を評価します。 （フィードバックの方法）授業中に講評を行います。 (適用DP) DP1（30%）、DP2（40%）、DP3（30%） | | |

| | | |
|---------|-------|---|
| 履修条件 | 特になし。 | |
| 履修上の注意点 | 特になし。 | |
| 授業内容 | 回 | 内容 |
| | 1 | ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 ガイダンスの聴講と個別質問により、当該科目の到達目標や授業計画、授業運営や成績評価方法について想起できるようになる（DP-1, 3, 4）。 ③予習(120分) シラバスの内容を精読し、当科目の学修計画を作成する。 ④復習(120分) 講義ノートを確認して、自身の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。 |
| | 2 | ①授業テーマ 国際社会の構造 ②授業概要 国際法適用の前提となる国際社会の構造について、国内法との違いを意識した上で説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際法を解釈・適用するにあたって重要となる、国際社会の構造の特徴について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。 |
| | 3 | ①授業テーマ 法源 ②授業概要 一元的な立法機関が存在しない中で、国際法はどのように成立し、どのような形式で存在するのか、説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、現実の社会では法源にまつわるどのような点が問題となるのか、解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。 |
| | 4 | ①授業テーマ 空間に関する国際法(1) ②授業概要 空間に関する国際法の規律について、国家領域を中心にその特徴を説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。 |
| | 5 | ①授業テーマ 空間に関する国際法（2） ②授業概要 空間に関する国際法の規律について、海洋を中心のその特徴を説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。 |
| | 6 | ①授業テーマ 人権に関する国際法（1） ②授業概要 人権に関する国際法の規律について、条約上の制度の目的および特徴、国際社会における適用、国内実施等について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。 |
| | 7 | ①授業テーマ 人権に関する国際法（2） ②授業概要 人権に関する国際法の規律について、条約上の制度の目的および特徴、国際社会における適用、国内実施等について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。 |
| | 8 | ①授業テーマ 刑事に関する国際法（1） ②授業概要 刑事に関する国際法の規律について、条約を中心に、その特徴、国際社会における適用、国内実施等について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 |

| | |
|-------------|---|
| | <p>④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 9 | <p>①授業テーマ 刑事に関する国際法（2） ②授業概要 刑事に関する国際法の規律について、条約を中心に、その特徴、国際社会における適用、国内実施等について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 10 | <p>①授業テーマ 経済に関する国際法 ②授業概要 経済に関する国際法の規律について、条約を中心に、その特徴、国際社会における適用、国内実施等について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 11 | <p>①授業テーマ 環境に関する国際法 ②授業概要 環境に関する国際法の規律について、条約を中心に、その特徴、国際社会における適用、国内実施等について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 12 | <p>①授業テーマ 紛争解決に関する国際法 ②授業概要 国際法における紛争解決手段の特徴、限界、制度的な工夫について説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 13 | <p>①授業テーマ 安全保障に関する国際法(1) ②授業概要 安全保障に関する国際法の制度について、歴史的な背景を踏まえたその目的および特徴を説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 14 | <p>①授業テーマ 安全保障に関する国際法(2) ②授業概要 安全保障に関する国際法の制度について、歴史的な背景を踏まえたその目的および特徴を説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） テキストの該当部分を精読し、授業で扱う内容の概要を掴む。 ④復習（120分） 講義ノートを整理し、授業で扱った内容を十分に理解する。</p> |
| 15 | <p>①授業テーマ 授業総括 ②授業概要 危機管理に関わる諸問題の予防・解決において、国際法が如何なる役割を果たし得るかについて説明できるようになる（DP-1, 2, 3）。担当教員の実務経験を踏まえて、国際問題に対する国際法の適用、国際法による解決について解説します。 ③予習（120分） 当科目を通じて自分が修得した知識・技能・態度を論じられるように準備する。 ④復習（120分） 授業総括および教員からのフィードバック内容を振り返り、当科目を通じて修得した知識等を自身の修士論文に如何に取り入れることができるかについて検討する。</p> |
| 関連科目 | 危機管理学研究演習Ⅱ、危機管理学研究演習Ⅲ、危機管理学研究演習Ⅳ |
| 教科書 | <p>①森肇志ほか著『分野別 国際条約ハンドブック』（有斐閣、2020年） ②植木俊哉・中谷和弘『国際条約集 2023年版』（有斐閣、2023年） すでに購入済みの場合は、最新版でなくとも構いません。</p> |
| 参考書・参考URL | 授業内で適宜紹介します。 |
| 連絡先・オフィスアワー | <p>■連絡先 開講時に伝えます。 ■オフィスアワー 開講年度のオフィスアワーリストをご確認ください。それ以外の時間帯については、メールで事前にアポイントメントを取ってください。</p> |

| | |
|------|---|
| 研究比率 | ■危機管理領域との対応 災害マネジメント15%；パブリックセキュリティ15%；グローバルセキュリティ50%；情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理50%；法学50% |
|------|---|

